

学校法人滋慶学園 札幌ベルエポック製菓調理専門学校 平成28年度学校関係者評価委員会 評価表

【平成29年6月14日実施】

平成28年度自己点検自己評価(平成28年4月1日～平成29年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育成人材像 目的教育理念	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。 事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。 また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことになりの力を注いでいる。 このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。	学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)にしている。 建学の理念①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を實踐し 4つの信頼 (①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼) を得られるよう学校運営をしている。  建学の理念に基づいて、札幌ベルエポック製菓調理専門学校は高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力をもった「クオリティオプティブのコーディネーター」を養成することを開校の目的に掲げている札幌ベルエポック製菓調理専門学校は、入学前から卒業後に至るまでの『体験しながら学ぶ』※1教育プログラムを通じて、『やる気』と『働く意欲』を失わず食分野で長く活躍する人材を養成することを開校の目的として掲げ学校運営をしている。	3.0	[小泉委員]人材ニーズについて これからの料理人像を考えると、ただ料理を作るだけでは駄目で、ハサップに関する衛生学やアレルギー問題、アレルギー等に優れた料理人の育成が急務と考えられる。  [渡邊委員] 建学の理念どおりに遂行されていると感じた。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-2 運営方針は定められているか	2	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。	事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(5ヵ年計画)	2.8	[小泉委員]学校運営に関して意見を述べるのはおこがましいが、我々が生徒に望むのは、心の強さ、やる気、大きな夢である。メンタル面の教育も必要な時代かもしれない。  [佐藤委員]年度中に教員・職員の転勤があるのはどうなのか？  [鈴木委員]学生とそこに勤務する職員が幸せを感じる組織となるよう期待している。
	2-3 事業計画は定められているか	2	作成した事業計画は、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。 このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努めている。	①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(5ヵ年計画)		
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	部署内の連携については定例化されているが、現場運営に必要な意思決定のコミュニケーションの機会設定については、改善したい課題がある。 また、マネージャー同士では運営会議の場があるが、部署を越えたスタッフ間におけるコミュニケーション機会の増やすなど対応していきたい。	日常的なツールボックスミーティング注力しているが、まだ習慣化されるまでに至っておらず、この組織文化を定着させることが課題。 同時に、誰でも自由にアイデアが言える環境の整備が重要。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。 また、その後の教職員の育成には、OJT制度をはじめ職階に応じた研修を整備している。そして、全教職員は目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例えば、入学式・卒業式担当、行事担当、学生挨拶推進担当、清掃運動担当など)も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。 目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。		
	2-6 意思決定システムは確立されているか	3	意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画を基にした組織と意思決定システムを連動させることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。 また、会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。 常に『何のため』を意識して会議を実施しており、議論に必要な資料は、担当者が事前にデータ分析などを行い、準備している。また、会議で決定されたことは次回の会議で進捗状況を振り返ることで、漏れや遅滞を出さないよう工夫している。	会議の構成は以下の通り。 1. 法人理事会・評議員会 :最高決議機関 2. 学校戦略会議 :運営方針の起案会議 3. 法人運営会議 :運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 学校運営会議 :学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 :決定事項の周知 6. 学校学科会議・部署会議 :部署の問題解決会議 7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会) 8. 様々なプロジェクトの会議		
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)により管理している。 管理項目は以下の通り。 ①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム 等により構築されている。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3		<p>毎年、入口(受験生)と出口(業界)のニーズ等の市場調査を基に学科(コース)の課題を明確にして課題キーワードを抽出している。また、業界代表並びに業界団体の方にて構成する「教育課程編成委員会」を定期開催し意見交換を行っている。</p> <p>それによって養成目的(学生の将来の姿)の見直しを毎年実施している。そして、養成目的の見直しを基に卒業時や各年次の到達イメージ(教育目標)やその為の教育カリキュラムまで一貫した修正を行っている。</p>	<p>カリキュラムの編成に関しては、3つの教育システム(PCP教育システム、CPI教育システム、MMPプログラム)によって、体系的な形が保たれている。上記より、学科のスタート(入学前)からゴール(卒業後、就職)までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。</p> <p>1. PCP教育システム (P…Pre College、C…College、P…Post College)(※) 入学前から卒業後までの一貫した人材育成のためのシステム。入学前に自分の夢や将来の仕事を見だし(自己発見)、在学中にその夢の実現に向けて変身していき(自己変革)、そして卒業後あこがれの職場でプロとしての自分を完成させていく(自己実現)。そうしたフローでのプロセス全体を総じて呼ぶ。</p> <p>2. CPI教育システム CPI教育システムは、導入教育(Communication)→専門教育(Professionalism)→実践教育(Independence)というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育システムです。</p> <p>3. MMPプログラム (M…Motivation、M…Mission、P…Professional) 自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション(動機づけ)」「ミッション(使命感)」「プロフェッショナル(職業的な知恵)」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されている。</p>	2.7	<p>[小泉委員]現場としては、基本重視の教育強化をお願いしたい。現場において勤務時間以外の練習等はサービス残業とみなされて弊社ではとても神経質なところである。</p> <p>[館野委員]在学中の生徒に、年数回マイセルフリポートのような物を提出させ、考えの変化又は今後の取り組みたい事柄・目標等を認識することで、今後の教育指導・就職等の参考にしてはどうだろうか。</p> <p>[佐藤委員]習熟度の遅れている学生の対策はどうしていくのか？</p> <p>[鈴木委員]厳しめに自己評価をしているが、長い学校の歴史で培った教育活動をさらにブラッシュアップし、業界の発展に寄与されることを願って止まない。</p> <p>[渡邊委員]カリキュラムが優れていると感じた。</p> <p>[天野委員]人間力を育む教育を期待している。家庭でもそういったことを意識して過ごしていかなければと強く感じる。</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか						
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	2		<p>教育課程の編成については、毎年学内の編成委員による1次策定の後、有識者で組織される教育課程編成委員会を年2回開催することで更にブラッシュアップを図るよう構築されている。</p> <p>また、ここ数年大きく変わってきた学生に対応したキャリア教育へのシフトを方針とし、その中でキャリア教育の体系化を図り、学生の入学前から在学中、そして卒業後までサポートする職業教育へとつなげている。これらの教育の評価については、FDC(ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター)という専門の役職を置き、教務部長・学科長と連携を図り編成している。</p> <p>それらのメンバーが主導となり、定期的に学生からの授業アンケートと講師個人の自己評価のアンケートを実施し、FDCによるフィードバック面談を実施することで、教育力の向上に努めている。また、評価、分析することで、その時点の業界ニーズに応え、学生に合ったカリキュラムを作成している。</p>	<p>キャリア教育における教員向け教本である「ロードマップ」の中では、キャリア教育を「キャリア形成段階」「キャリア設計段階」「キャリア開発段階」の3つに分類し、それぞれの段階で「流れ」「課題」「方略」を示している。</p> <p>成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。</p>		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか						
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか						
	3-9-4 授業評価を実施しているか						
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3		<p>成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業を出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習や特別授業を実施し、不足している部分を補う体制をとっている。</p>	<p>成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。</p>		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか						
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	2		<p>学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て、実施している。資格取得のサポート体制としては、学科ごとに若干異なるが、ほぼ全ての資格に対して対策講座を取り入れている。</p>	<p>在学中不合格であった場合は、卒業後も合格まで指導していく体制をとっている。資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、別に放課後や土・日曜を利用して、特別対策講座を実施している。</p>		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか						
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	2		<p>育成目標達成のために、実習先や第一専門職種の就職先の協力を仰ぎ、より現場を理解し、最前線で活躍している講師を確実に確保する取り組みを行っている。現状採用している講師は、現場での活動も行いつつ講義もしている。授業評価の視点として、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。</p> <p>評価体制としては、授業アンケートと、オープン授業を通して、各教員の専門性の把握及び評価を行っている。教職員の質向上は必須条件であり、学校と学園でそれぞれ研修を実施している。</p> <p>また、滋慶学園グループの同分野の姉妹校で組織した滋慶教育科学研究会 食文化教育部会の活動では、教育カリキュラムの情報交換をはじめ、技術指導教員の講習会などを定期的に開催している。</p>	<p>人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専断的に関わるファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)が組織されており、定期的にFDC会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。</p> <p>また、学科の育成目標を達成するために、担任については担任研修を実施し、教授力向上とともにヒューマンスキルの向上も図っている。講師については講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。</p>		
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか						
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか							

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 学修成果	4-13 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2	開校以来就職希望者の内定100%は崩したことはなく、就職者数の目標を重点目標として掲げている。毎月15日と月末に、就職内定状況と以下の7つの項目で毎月15日数字・末数字を確認し、問題がある場合の対策を立て実行する。 ・卒業年次在籍者数 ・就職希望者数 ・求人件数(職種別・有効求人数) ・内定者数(学科ごと、月ごとと累計) ・専門就職者数 ・月別内定シミュレーション ・学生就職活動状況表(学科クラス別)	本校は、就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターは、本校に入学を希望する方から、在校生、同窓生まで幅広くキャリアアップ支援(就職支援、生涯学習支援)をしている。このキャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。キャリアセンターの目的は ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう:入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援:在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援:卒業後の同窓生には就職した後さらなるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチング などの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	2.5	[小泉委員]最近特に卒業生の評価は私も向上していると感じている。 [吉本委員]卒業生・在校生の社会的な活動を益々期待している。 [鈴木委員]内定率100%は素晴らしい成果だと思う。業界への優秀な人材を今後も送り込めるよう期待している。 [渡邊委員]卒業生への支援も継続されている事は、保護者も安心して進学の後押しが出来ると思う。 [天野委員]内定率、資格取得率の高さを維持していることは、日頃の指導の成果と感じる。在学中、卒業後もコンテストで好成績を残していることは、生徒達の意識の向上につながり、励みになる。
	4-14 資格取得率の向上が図られているか	2	開校以来、各学科のカリキュラムは、専門資格100%取得を重視して設計されている。	資格取得者数及びその推移の把握に関しては、各学科で ・自校の結果及び推移の把握、データ化 ・他校の結果及び全国の合格率の推移のデータ化を行っている。 また、グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組みづくりを行っている。 その他、オリジナルテキストやWEB学習システムを作成・活用している		
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	卒業生の社会的評価は向上しており、卒業後のコンテストにおいても例年上位入賞を果たす人材を輩出できている。そういった経緯もあり業界からの評価も向上し、信頼も得られ学校指定での求人を得られているケースがある。また卒業後の離職調査をし、離職理由を分析し育成に取り入れている事を少しずつ認知され、就職先業界から卒業生の育成について相談が来る事もある。	在学中から積極的にコンテストに参加し意識を高めることで、卒業後もプロのコンテストで入賞できるような人材が育っている。		

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学生支援	5-16 就職に関する体制は整備されているか	2	<p>キャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。</p> <p>また、各科で就職講座をカリキュラムに組み込んでおり、そこで就職の具体的な活動に関する指導を行うと同時に、キャリアセンターにおいても随時相談に乗れる体制を整えている。</p> <p>尚、就職支援は1年次後期より下記のフローで行っている。</p> <p>STEP1: 就職講座開講(就職活動ガイダンス、動機付け、企業研究)</p> <p>STEP2: 自己分析・履歴書作成指導</p> <p>STEP3: 現場実習・業界訪問</p> <p>STEP4: 就職スタート行事(就職結団式・業界模擬面接)</p> <p>STEP5: 学内企業説明会・選考会</p> <p>以降は随時 個別活動支援実施</p> <p>また、離職防止への取り組みを強化するに、学生個々と企業の特徴を踏まえた就職先の提案(マッチング)の取り組みの他、最低賃金や福利厚生などのチェック、奨学金の返還を踏まえたマネー教育などにも力を入れている。</p> <p>効果測定のために、卒業後1年以内の離職状況を調査し、実態把握と対策を講じている。</p>	<p>【姉妹校間の求人情報の活用】全国各地のベルエポック製菓調理系専門学校3校の求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人を共有することができ多くの情報を得ることができる。また求人をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。</p> <p>【学内企業説明会の実施】企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。</p> <p>【留学生の就職支援】 2014年より開始された日本料理普及事業に基づく特定活動ビザの取得サポートを実施し、留学生の就業支援を行っている。</p>	優れている…3 適切…2 改善が必要…1	<p>[小泉委員]OBのつながりが非常に大切である。学校が中心となってOB会の設立をお勧めする。</p> <p>[吉本委員]卒業後も学校に遊びに行くという卒業生は、他校よりも多い気がする。良い面が出ているからではないだろうか。</p> <p>[鈴木委員]学生が困った時に、いかに早急にサポートできるかは学校のカリキュラムだと思う。入学した学生が満足のいく支援を受けられるように整備をよろしく願いたい。</p> <p>[天野委員]就職活動が始まったばかりで、何がわからないのかわからないところもあるが、色々な面で指導・相談にのってもらい、笑顔が増えた様に感じている。</p>
	5-17 退学率の低減が図られているか	2	問題学生の課題にフォーカスし何故の追及に課題がある。学生に親身に寄り添い一緒に課題を共有し互いに信頼しあいながら解決する力の育成が課題である。	問題学生の中途退学理由分類を分析し、状況にあわせた学生支援、学生指導及びクラス運営を実施するために問題解決をシステム化とマニュアル化し教育力の向上を図っている。	2.6	
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備されているか	3	<p>学生の相談窓口として週に2回SSCを開設している。</p> <p>希望者は利用できる環境にあり体制としては整備されている。</p> <p>留学生は個別にLINEでも対応しており学業のみならず生活サポートも行っている。</p>	<p>SSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。</p> <p>全教職員が「JESCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。</p> <p>カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。</p> <p>心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズに図られている。</p>		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	2	<p>学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。</p> <p>特に、グループ内資格(ファイナンシャルアドバイザー[FA])を取得したスタッフによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり取りをアドバイスできている。</p> <p>また、学内では、出願前から定期的な学費個別相談をはじめ、学費分納制度利用者に対する個別面談、進級時の学費相談会などで多数の相談に対応している。</p>	<p>主な経済支援制度 【ベルエポック学費分納制度】 この制度は、日本学生支援機構の予約採用を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の指定口座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。</p> <p>学校保険安全法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員は4～6月中に受診することになっている。また、学校医や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。</p> <p>学園で学生寮を完備しており、学生寮本部の生活アドバイザーが各寮を巡回し生活環境の整備や学生の支援ができる体制ができている。</p> <p>学校では入学直後「一人暮らしセミナー」(防犯セミナー、食生活セミナー)を実施し、担任面談を実施したり、状況によりカウンセラーのカウンセリングを受けている。</p> <p>クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。</p> <p>今後の参加を見据えた活動ができるよう整備する。</p>		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-20 保護者との連携体制を構築しているか	2	<p>学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。</p>	<p>日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分かるような取り組みを行っている。今後は学内における保護者向け公開授業や保護者会などを通して更に保護者との連携の場を増やしていく。</p>		
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	2	<p>生涯教育として卒業生に対して卒業後も継続的に支援を行っている。年に一度の同窓会を開催し、卒業生同士のキャリア開発に関わる情報交換の場として活用してもらっている。また、離職を考え相談に来る卒業生には、面談や求人票の提示などを通して、専門職継続の支援を行っている。</p>	<p>【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。</p> <p>【国家試験フルサポート制度】 資格取得に関して、在学時に未取得でも卒業後も無料で特別講座を開く体制をとっている。</p>		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	当校の施設設備は以下の基準を全て充足している・ ・専修学校設置基準 ・製菓衛生師・調理師養成施設設置基準 ・各種資格認定団体認定校 設置基準 ・消防法に関する基準 ・バリアフリー条例基準 ・その他の建築基準 実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	2.8	[小泉委員]今、建設中の新しい校舎にとっても期待している。  [鈴木委員]業界へスムーズに慣れる意味でも、早期からのインターンシップなどは大変有効かと思う。今後も沢山の受け入れ先の開拓が、その先の求人にもつながる事と思う。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2	多様化する学生のニーズに応じて自ら学外実習の希望先を提出してもらい業界に打診して学外実習を選定している。海外研修は研修内に教育提携校である「ヴァローナ」「イチフ」でのハイレベルな教育機関での実習を入れ学習成果の高いプログラムを構築している。 海外研修の渡航先に関しては、学園の国際事業部と連携をして各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。海外研修は、この国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものである。 学外実習については実習概要から承諾、事前・事後教育、研修ノート、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化している。 また、学外の実習中における事故に関する契約書も先方企業に調整の上、締結している。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。 今後は実習先における機密事項の取り扱いやSNSに関するモラル教育を充実し、実習生が個人情報保護をはじめとしたコンプライアンスについても理解を深める教育が必要である。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか  6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	施設設備の耐震化については適切に対応している。 防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。 救急時における機器・備品も準備されている(全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど)。 設備・機器のマニュアルをそれぞれの設置している教室に常備し、情報伝達に役立てている。	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。 救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 ・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ・校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計1台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。		
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか  7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか	2	学生募集活動は、北海道私立専修学校各種学校連合会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。 個人情報においては、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則を基に、学校案内、募集要項の通りに適正に行われていると考えている。	ガイダンス業者と契約し、高等学校における進学説明会への参加を積極的に行っている。 また、入学希望者向け入学案内とは別に高校教員・保護者向けの学校案内を作成し、教育理念やサポート体制についての説明を行っている。 そして、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「プレカレッジ(入学前教育)」を実施している。	2.6	[鈴木委員]少子化による学生確保は、どこの学校にとっても最重要の課題である。教育を売りものにして以上、教育内容の充実を怠ることなく支持されることを期待している。
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか  7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	2	入学選考においては学則に基づき、募集要項に定めた通りの方法、スケジュールで適切に行なわれている。また、入学選考に関する実績をデータとして把握しており、また、入学生を対象としたアンケートも実施し、その結果を授業運営等に活用している。 毎回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。	各回の入学選考は学内で組織する選考委員により基準を基にした合格判定を適切に行っている。 また、各回の受験者・合格者の実績は台帳管理している他、入学手続き完了管理(入金管理)も同時に行うことで応募者数の予測に生かしている。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか  7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	学納金は、その学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。 毎年、各学科において教材及び講師の見直しを行っており、諸経費の無駄な支出をチェックしている。各学科から、素案として提出されたものを、最終的に学校事務責任者の事務局長がチェックして、厳正に確定をしている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつたのアドバイスを実施している。		

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3		5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけでなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。 また、チェック機能を充実させており、常に情報を把握から分析できる体制を整えている。 5か年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画(予算)の確実な遂行、予算実績対比により計画通りに実行されているかを確認する。このような体制をとっているため、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。	3.0	
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか						
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3		収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度ごとには見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点の特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか						
	8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3		体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。最終的には5月に実施される理事会及び評議員会に計算書類が適正であるかどうかを記載した監査報告書を提出し、内容を報告している。	主なフローは以下の通り。 ①取引→②仕訳→③帳簿→④総勘定元帳→⑤試算表→⑥計算書類作成→⑦公認会計士及び監事の会計監査→理事会・評議員会による承認→行政へ報告		
8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3		法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備している。 尚、平成25年度より財務状況をホームページによる公開を開始している。	<体制> 1. 法人統括責任者 (常務理事) 2. 学校統括責任者 (学校運営の現場責任者=事務局長) 3. 学校事務担当者 (学校の経理責任者=学生サービスセンター長)			
9 法令等の遵守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3		本校では法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施している。また、法人内に「コンプライアンス委員会」を設置し、行動規範や規定の策定、研修の実施を行なっている。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制(あり) ②個人情報管理組織体制(あり) ③広告倫理管理組織体制 ④地球温暖化防止委員会 ⑤進路変更委員会 (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム	3.0	[小泉委員]料理人にとっての重要課題である。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3		全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規則を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。 学校という業務上、日々、大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生の教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。	主な事項は以下の通り。 ・適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 ・保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 ・対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 ・教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。 個人情報保護最高責任者資格(認定CPO資格)を取得した職員を配置している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3					
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか			昨年、評価実施に向けて規定や組織の整備、結果の公表などを行ない、昨年は改めて一から見直した。また同様に今年も再度一から見直しを実施した。 また、今後は評価を基にした改善についての活動を更に活発にしていく。	本校では、自己点検・自己評価ならびに第三者評価についてその意義を重要だと捉え、平成22年8月に私立専門学校等学校評価研究機構に加盟し、認定を受け、北海道内初の第三者評価認定校となった。		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか						
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか							
9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3		教育情報の公開に関しては、学校案内及びホームページにて適正に公開している。また紙面や画面だけでなく実際の授業や活動をみてもらおう機会として今後、教育プログラムに合わせた見学会を保護者や関連業界に案内していきたい。	公開は下記のHPIにて行っている。 <a href="http://www.foods.belle.ac.jp/">http://www.foods.belle.ac.jp/</a>			

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	<p>本学園はミッションの1つとして「国際教育」を掲げ、国際教育に力を入れている。本校ではパティシエ科がフランスのチョコレートメーカー「ヴァローナ社」、調理師科がイタリアの調理教育機関「イチフ」と提携し、学内外で学生及び教職員の研修を実施している。また、留学生の募集に関しても海外に事務所を構え、入学相談から、入国手続きまで留学生が安心して相談できる体制を整えている。</p>	<p>フランスで発生した同時多発テロを受けて、28年度はフランスでの海外研修を中止し、イタリアのみ実施した。</p>	2.1	<p>[小泉委員]なかなか頭の中では考えるが、行動が伴わない。とても難しい課題でもある。</p> <p>[吉本委員]業界団体や地域振興への参加をこれからも期待している。</p> <p>[佐藤委員]企業とのコラボレーションした活動をもっと増やしても良いのではないかな？</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	<p>本学園のミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、地域や業界へ貢献する取組みを行なっている。学内販売実習では、地域の住民の方に安価でケーキや料理の提供を行うプログラムや、業界団体や地域振興のためのイベントへの参加協力などを実践した。</p>			